



おかやまICT活用 実践事例集



Web版

全体版
vol.4
2022.2

～ 主体的な学びを充実させるICT活用 ～

Ver.220221

■■GIGAスクール環境活用分類■■

※参考として実践項目の主なねらいと効果を
9つのアイコンを使って分類しています。



クラウドや
アプリの活用



デジタルデータの
保存



思考やデータの
可視化



データの共有や
共同編集



対話を
充実させる活用



思考を促す
活用



表現を
充実させる活用



課題のやり取りと
評価の支援



効率化や
省力化

モガナニシテル?



岡山県立水島工業高等学校
真庭市立河内小学校
真庭市立月田小学校
新見市立萬歳小学校
岡山県立東備支援学校



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

岡山県総合教育センター



岡山県立水島工業高等学校でのGIGAスクール構想推進への取組を取材しました

【概要】

水島工業高校ではベテランと若手がタッグを組んで、校内での活用を推進しています。授業においては、特に若手の先生を中心に、工業科目のうち各種の実習での活用が模索されています。今まで実際に見たり、触れたりすることで伝えられてきた『ものづくりの技術』と、『ICT機器』をうまく組み合わせ、授業の効率化と技術の伝承に取り組んでいます。また、資格検定補習ではFormsを用いることで、反復練習のスピードを上げ、結果のフィードバックがスムーズになっています。就職試験指導でも面接練習を録画し、すぐに、いつでも、何度でも確認できることで、個別に最適化した指導が進められています。

ICT環境：生徒用端末（Chromebook）1年全員＋約80台 短焦点プロジェクター Google Workspaceなど

【教育の情報化の推進に関する活用のポイント】

A 実技を伴う科目（工業）における活用

1



工業化学科の分析実習では、操作確認はスライドで、実習データの共有はスプレッドシートで行うことで、操作に充てる時間が増えた。

板書で確認していた実習操作は、スライドを共有することで生徒の端末でいつでも確認することが可能になった。測定値の共有は、以前からExcelで行ってはいたが、スプレッドシートに変えたことで、教師側の把握が容易になった。また、レポートの提出は紙とデータ（PDF）を併用しており、両者の良いところを残しつつ上手に活用している。



タブレットを横に置いて実習中

2



旋盤や鋳造などでは手順や注意点を録画することで、繰り返しの視聴が可能になった。いずれはライブラリー化を目指している。

実習では一般的に、教師が手順や注意点を実演して、その後生徒が反復練習を行っていく。タブレット端末を用いて手順を録画することで、一度ではわからなかった場合や、欠席した時でも生徒が繰り返し視聴することができるようになった。

また、年度当初着任した教師が、自校での取組を予習することにも適している。

このような取組は、沖縄県教育委員会の教育支援ビデオ「OPEN EV」のYouTube動画を参考にしており、見やすい角度だけでなく、肖像権を意識してなるべく生徒の顔を写さない工夫もしている。

今後は、ベテランから若年層への技術の伝承も意識して、工業技術ライブラリーができればと考えている。



見やすい角度を意識して撮影する



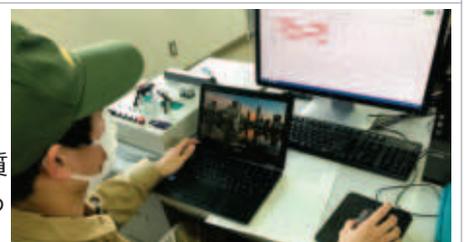
肖像権を意識して顔を入れない

3



調べてから質問するという習慣ができ、生徒の学びへの姿勢が変わった。

生徒が「わからん！」という頻度やあきらめる場面が以前より減った。わからないとき、すぐに調べることができ、調べてから質問する習慣が定着してきている。生徒の学びに対する姿勢が変わったように感じられている。



疑問をすぐに調べ、授業が受けやすくなった

B 端末利用で可能になった“個別最適化”

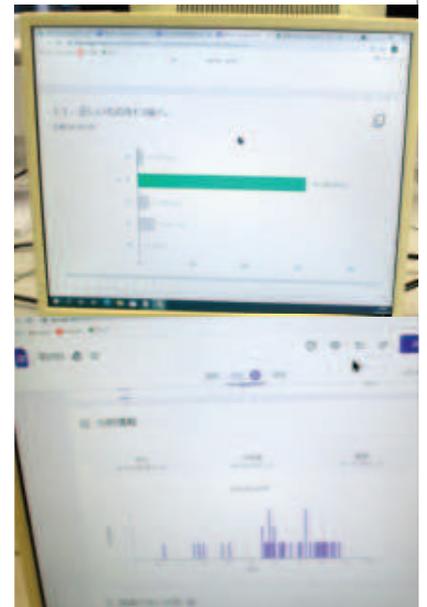
4 資格検定試験に向けた補習では、Formsを利用した小テストで自己採点と苦手分野の指導を効率的に行えるようになった。



「危険物取扱者試験」や「情報技術検定」など、資格検定に向けた補習では、Formsで小テストを行い、自己採点や正答率の把握、苦手分野の指導がとても効率的に行えるようになった。小テスト → 採点 → 苦手把握 → 再指導 が短時間で可能となっている。

また、履歴が残り、クラス内での順位などもすぐにわかるので、生徒自身が成長を感じやすく、モチベーションアップにもつながっている。

一方で、計算系の問題や、記述式の問題はFormsでは対応しにくいので、従来型の紙による小テストも併用している。すべてをデジタルで行おうとせず、良いところを上手く活用するように意識している。



正答率を瞬時に表示できる

5 ClassiによるWebテストを導入し、基礎学力向上に向けた取り組みを継続している。



以前から基礎学力向上に向けた補習を行っていたが、同じプリントを用いて一斉指導で行っていたため、個々の学習進度に応じた対応をすることが難しかった。そこで、Classiを用いることで個別最適な学びができるようになった。「1対40の授業」から「1対1が40組ある授業」へと変わっている。



手書きより楽で速い

6 就職試験のための面接指導は録画して生徒へフィードバックし、空き時間には企業のHPをチェックしている。



面接の様子を撮影して自ら確認したり、他者との違いを比較したりする点は従来と変わらないが、生徒へ簡単に動画を渡せるようになったので、自宅でも見直すことが容易となった。

また、企業HPをチェックさせやすくなり、懇談時にも利用している。さらに、一部企業では面接試験後の適性検査が遠隔実施となり、生徒は学校で受検することとなったが、特に問題はなかった。

7 MeetやZoomを使って、学校と他校や企業、学習寮をつないでいる。



リモート配信を利用して、つながる場面も多くある。建築科は国道工事現場見学会に遠隔参加した。工業化学科では岡山大学の教授の講演を聞き、課題研究のチームに報告した。倉敷市立旭丘小学校との交流学习も遠隔実施できた。また、学習寮のWi-Fi環境を整え、休校期間中に通常授業をライブ配信することもできた。



【まとめ】

『誠実は人間最高の善である』を校訓とする水島工業高校では「録画」「共有」「検索」「Forms作成」といった、端末のシンプルな操作方法を誠実に、確実に繰り返して成果を上げている印象を受けました。簡単なことほど取り入れやすく、長続きする、という見本のような取組が多く見られました。



真庭市立河内小学校での1人1台端末の活用状況を取材しました

【概要】

1人1台端末が整備され、授業等で活用が始まりました。すべての学年で活用が進んでいますが、今回は特に1年生の取組を中心に取材しました。

活用していたICT環境は、①1人1台端末（Chromebook）②教師用端末（Windowsタブレット）③Google Workspace for Education Fundamentals（Classroom、Jamboard、スライド）④eライブラリ ⑤デジタル教科書 ⑥NHK for School ⑦スズキ教育ソフト キーボー島

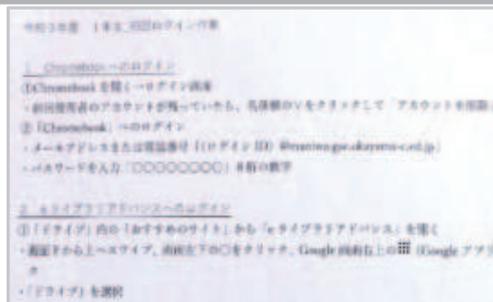
【教育の情報化の推進に関する活用のポイント】

A 取組の様子

1 地域の人材を活用。初回ログインに支援の力



・低学年、特に1年生の初めは、1人1台端末が導入されても学習で使える状態になるまでにかかなり時間を要する。河内小学校では、地域ボランティアの方に、1年生の初回ログインの支援をしていただいた。最初は、ログインに地域の方々の支援が必要だった児童も、回数を追うごとに慣れていき、自分でログインできるようになった。



2 カメラ機能を活用しながら、端末の使い方を知る



・端末の使い方に慣れる初期段階として、「カメラ」機能を用いることが多い。写真を撮ることで端末の使い方にも慣れ、保存の仕方など後の活動にも活かすことができた。
 ・1年生の図画工作科で自分の作品を写真に撮り、提出BOXへ提出したり、生活科では、植物や野菜などをじっくり観察したりしている。
 ・成長の様子等を記録したり、自分の作品を蓄積したりすることで、振り返りにも有効である。



3 効果を見据えたスライドの活用



・1年生の生活科では、スライドを使用し、3学期の発表会に向けて準備を進めている。スライドは個人作成で、最初は教師が枠を配り、自分や野菜の名前を手書きで入力した。次の段階として、写真を貼って野菜の成長を残したり、観察の記録を書いたりした。指での手書き入力のため、文字を正確に認識できずうまく変換ができなかったり、字の大きさが直せなかったりすることもあったが、友だち同士で協力しながら作成を進めている。成長記録としてのまとめでもあるが、相手を意識した発表、大きな声で堂々と発表するためのツールとして、スライドの活用を計画している。



4 Jamboardの活用



・1年生の国語科「ものの名前」の授業で、ことばを付箋に書き、Jamboardに貼り付けてことばのまとまりについて学習した。付箋に書き込むことで全員が意欲的に参加できた。また、友だちの答えを瞬時に見ることができ、考えるヒントになった。自由に動かすことができるので、まとまりを分類するのに有効であった。



5 他学年の取組



・2年生の生活科では、図書館見学に行く際に予め質問を考え、出た質問をJamboardにまとめた。3年生は「自分通信」をスライド使って作成し、4年生は作ったリーフレットにコメントを貼り付けるなどの活用をしている。また、地域にある施設へ出向くことができなかつた際には、「Meet」を使用して、施設利用者の方との交流を行った。



B 学習環境・校内研修・校務の情報化

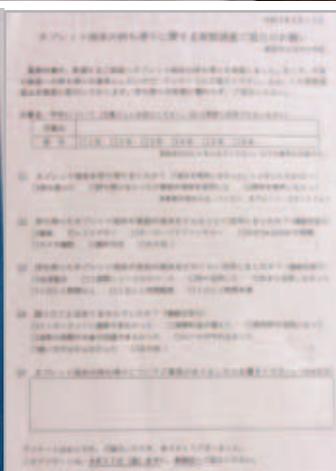
6 端末は登校後、児童が各自で用意し保管

・中・高学年の教室前に保管庫を設置している。低学年は登校後、端末を取りに上がり、教室へ持ち帰る。教室では、出し入れしやすいケースで保管している。中・高学年も、ロッカーの上で保管し、いつでも使える環境を整備している。各学年の実態に合わせた工夫をしている。



7 校内や持ち帰りのルール

・校内や持ち帰りのルールを定め、保護者へ参観日等を利用して周知した。持ち帰りの際には市のルールに則り、持ち帰りの申請書を提出してもらい、管理している。
・持ち帰りをした後に、「タブレット端末の持ち帰りに関する実態調査」を行い、保護者の意識を確認しながら、今後の方針の参考にしている。



8 推進プランの作成

・各学年でそれぞれ使用するツールは学習のねらいに応じた選択している。
・校内で「Chromebook推進プラン」を定め、活用に取り組んでいる。各学年で付けたい力が明記されており、表で確認しながら学習を進めることができる。このことにより、ICT活用が系統的に進められ、計画を立てやすい。



【まとめ】

河内小学校では、どの学年も端末を活用した学習実践が進められており、校内研修等にも有効に使い、情報を共有しながら前向きに取り組まれている姿がうかがえました。「Chromebook推進プラン」や年間計画などもこの1年をかけて見直し、修正や加筆を加えていくなど、次年度を見据えた取組が行われていました。



真庭市立月田小学校での1人1台端末の活用状況を取材しました

【概要】

1人1台端末が整備され、どの学年でも活用が進んでいる状況です。今回は特に2年生の取組を中心に取材しました。

活用していたICT環境は、①1人1台端末（Chromebook）②教師用端末（Windowsタブレット）③Google Workspace for Education Fundamentals（Classroom、Jamboard、スライド、ドキュメント）④コラボノート ⑤eライブラリ ⑥デジタル教科書 ⑦NHK for School ⑧スズキ教育ソフトウェアキーボードアドベンチャー

【教育の情報化の推進に関する活用のポイント】

A 取組の様子（2年生）

1 少しの時間でもキーボード練習に打ち込む熱心さ



・授業が始まる前には、すでに児童の机の上に端末が用意されており、少しの時間でも「キーボードアドベンチャー」を開き、真剣にキーボード練習に取り組む姿が見られた。どの児童も意欲的で、自分の級が上がることに喜びを感じていた。チャイムが鳴るとすぐに閉じるなど、切り替えも早く、本時の学習に向かう姿勢を整えていた。



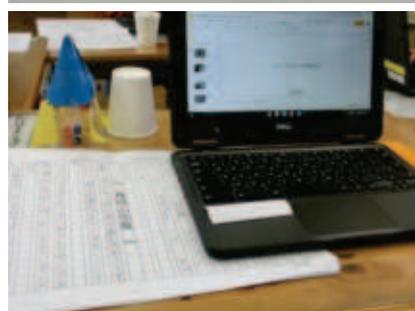
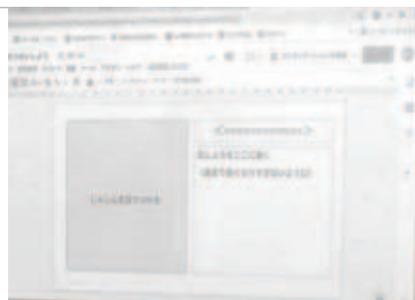
2 紙とデジタルのバランスをとっている 身に付けさせたい力を計画的に盛り込む



・これまでに、児童は、生活科や国語科、図画工作科等で端末を使用した学習を行っている。教科・単元に合わせ、2年生では「ドキュメント」や「スライド」を教師が選び、取り入れている。

・「スライド」は、『あったらいいな』『町探検』で使用した。教師から配付されたテンプレートに文字の入力や写真の貼付などをしたり、共同編集の仕方を学びながら作成したりして学習した。町探検の学習では、「スライド」の白紙から各自で作成することに挑戦した。

・国語科の『おもちゃの作り方を説明をしよう』では、作り方の順序が分かるよう工夫して文章を書くことがねらいである。ここでは、「スライド」を使用した学習を展開したが、単元の最初からではなく、まとめの段階で「スライド」を使用した。児童はこれまでの学習で、おもちゃを実際に作って工程をイメージしたり、おもちゃの作り方の説明を順序に気をつけて原稿を書いたりしている。教師が紙かデジタルか、使用するバランスを考えるに当たっては、本来の教科のねらいに即した学習を展開させるために、意図を持って選択する必要がある。



B 他学年・委員会の取組

3 他学年・委員会活動での取組



・3・4年生は、社会科で学習した内容をまとめる際、「ドキュメント」を使用し防災パンフレットを作成した。5年生では、「コラボノート」で新聞づくりをしたり、「スライド」で米作りをまとめたりした。



・1年生の算数『かたちづくり』では、色板などを使用して学習を進めることが多く見られたが、「Jamboard」に予め図形を影のようにして貼っておき、その影はどんな図形を使って作られているかを考える学習をした。



・企画委員会では、ユニセフ募金への協力を呼びかけるために、「スライド」に絵本のさし絵を取り込み、読み聞かせをするなど全校に見えるということを意識し、工夫して集会活動に取り入れている。



C 児童朝礼・校内研修等

4 体験を通してスキル面アップ



・コロナ禍で、今後も急な対応が想定される。月田小学校では、家庭から「Meet」に接続し、遠隔授業を受けることができるよう、学校で事前に練習した。

・児童朝礼を「Meet」で行っており、全校児童がリモートで朝礼に参加するという体験をした。その後のリモートでの児童朝礼では、校長先生から「『〇〇の秋』の〇〇にあなたはどんな言葉を入れますか?」という質問に対して、挙手ボタンを押し、ホワイトボードのフリップを示しながら発言をするという遠隔授業を想定した取組を行った。次第に端末の操作にも慣れてきている。

・また、児童朝礼での質問に対し、「Classroom」のコメント欄に答え等を書いて提出するという体験もしている。今後、遠隔授業をせざるを得なくなった場合でも、各自が接続し授業を受けられるという安心が得られた。



5 学びたい時に学びたいことを



・校内では、授業のビデオをいつでも見られるように、「Googleドライブ」の中に保存している。また、ICTに関する校内研修では、一斉に研修を行うこともあるが、各自のニーズに合わせ、情報担当者が個別に研修を行っている。個々のスキルアップのために、日常的に声を掛け合って取り組んでおり、学びたい時に学びたいことを研修できる良さがある。



【まとめ】

月田小学校でも、それぞれの学級担任が端末を活用した授業実践を進められていました。また、計画的に段階を踏んで子どもたちのスキルアップにつながる手立てを続けています。教師もまた、各自のスキルを身に付けるために研鑽を怠っていません。さらに、委員会等の教育活動でも使用するなど、端末を有効に活用した取組を実践されています。



新見市立萬歳小学校でiPadを活用した授業を取材しました

【概要】

新見市立萬歳小学校では、すべての学年で積極的にICTを取り入れた授業が行われています。小規模校における1人1台端末の効果的な活用による学習意欲の向上や、合同遠隔授業で児童の学びを広げる取組について紹介します。

活用していたICT環境は、①1人1台端末(iPad)、②電子黒板、③プレゼンテーションアプリ(keynote)、④プログラミング教材(Sphero BOLT)、⑤人型ロボット(Pepper)、⑥Web会議システム (Zoom)。

【教育の情報化の推進に関する活用のポイント】

A 写真アプリの活用

1 【生活科】 「アプリを使った植物の観察カード作成」



・2年生では、朝顔の観察カードを作成する際、端末のカメラ機能で撮影した写真に気づいたことを書き込んだ。暑い時期の屋外での活動は、熱中症への配慮が必要だが、短時間で観察することができ、集中することが難しい児童や、絵を描くことが苦手な児童も、写真を活用することで教室で落ち着いて細かい部分まで詳しく観察することができた。



・夏休みに朝顔と端末を持ち帰らせ観察を継続させたところ、工夫して写真を撮っており、児童の端末操作のスキルの上達が予想以上であった。また、写真や文章から「自分が発見したことを先生に伝えたい」という気持ちがあふれており、児童の学習意欲の向上につながっていたことがうかがえた。
 ・発表会では、児童が見つけた成長の記録を大型提示装置で全体に提示し、葉や花の部分を拡大したり全体の様子を映したりするなど、自分の感じたことや学んだことを工夫して表現し伝えることができた。



・授業者は「低学年における観察記録は、絵と文章によるものが主流であったが、自分の見たままを絵で表すことは難しく、授業時間の増加、意欲の低下などの問題があった。iPadを活用することで、気づいたことや発見したことを容易に観察カードにまとめることができるようになった。学習意欲も向上し、時間の短縮にもなった。」と手応えを感じていた。



朝顔の記録にiPadを活用



朝顔の全体と部分の両方を撮影

2 【国語】 「プレゼンテーション資料の作成」



・6年生の単元「私たちにできること」では、身の回りの問題について、具体的な事実や考えをもとに、自分たちができることを提案するという学習に取り組んだ。



・情報を集める際に、カメラ、スクリーンショット機能を活用することによって、調べたことをノートに書き写したりコピーしたりといった児童の活用を効率化することができた。



・集めた情報に必要なことを書き込んだり、重要だと感じたところに線を引いたりしたものをクラウドストレージに保存することでグループの中で情報を共有していた。
 ・調べたことをまとめて発表することが苦手な児童もiPadを活用することによって意欲的に活動ができた。



自分たちができることを発表会で提案

B プログラミング教育

3 【生活科】「Sphero BOLTのコースを作る」



- ・2年生の参観日には、アプリ対応のボール型ロボット「Sphero BOLT」を活用し、児童が先生役となり保護者にプログラミングの楽しさを感じてもらった授業を実施した。どのような動きやコースを考えたらよいか、保護者に分かりやすく伝えるにはどうすればよいかなど試行錯誤していた。
- ・ボール型ロボットを目的とする方向に動かす際は、2年生では未習の角度や速さについての知識が必要であるが、児童は「90度」や「270度」といった角度を体験を通して理解することができていた。

Sphero BOLT (スフィロ ボルト)

スマートフォンやタブレットでラジコン操作ができる。無料アプリを使って進む方向や速度、色をプログラミングし、Spheroを思った通りに動かすことができる。



保護者とペアでプログラミングに挑戦

C 遠隔授業における活用

4 【国語】「音読発表会」



- ・2年生の国語の授業で、同じ中学校区にある新砥小学校の児童とZoomを使った遠隔合同授業を行った。自己紹介をし、「たんぼのちえ」の音読をそれぞれ披露した後、一人ずつ感想等を発表し、最後に各担任がお勧めの本を紹介した。



- ・小規模校では、多様な考えに触れることや、他者に対して自分の考えを伝えるといった社会性を養う機会が少ないという課題があるが、このような合同遠隔授業を重ねることで、児童のコミュニケーション力も向上すると考えられる。
- ・萬歳小学校は、令和4年度末に学校統合が予定されている。これから、新しい環境での生活への見通しを持ち、不安解消の一助にもなると期待されることから、統合先の本郷小学校との合同授業も計画している。



画面を通してお互いに音読を披露

【まとめ】

先生方にお話をうかがう中で「こんなことがしたいというアイデアが、たくさんあるんです。」という言葉が印象的でした。先生方の「児童にこんな力をつけさせたい」という思いが授業へのエネルギーとなっていることが伝わってきました。また、それらのアイデアを活かした「ICTを使うことが目的になっているのではない」質の高い授業は、「授業のプロ」の先生方が「ICTのプロ」のICT支援員に相談して、それぞれの強みを生かしながら、うまく連携されているからこそ実現できていると感じました。

多くの学校で課題となっている文字入力については、手書きだけではなく入力で行っている学年もあり、まだ学習していない漢字でも予測変換の中から正しいものを選んで使って文章を書くなど、「書くことはできないが、読んだり選んだりすることはできるので漢字を使いたい」という気持ちが表れていました。また、文章ではなかなか表現できないことでも、画像ではすぐに伝えられるということを生かし、「先生にこんな面白いことがあったと伝えたい」という、読んだ相手の表情を想像して書いた写真絵日記など、ほっこりするようなエピソードもたくさんお聞きすることができました。

iPadは直感的に扱うことができ、低学年でも目的をもって操作する体験を通して、どんどん上達していて驚くほどだとお聞きしました。

また、苦手意識を感じている活動にも主体的に挑戦し、生き生きと取り組んでいる児童が見られる場面も多くあるそうです。苦手なことがICTでサポートでき、本人の学習意欲が高められるということは、個々の児童の実態に応じて有効に活用できているということだと思います。

ICTはあくまでも“道具”であり、効果的な使い方には教師の思いと力量によって大きな差が生まれるということは、従来のアナログの授業と変わらないと思います。まずは教師も児童も楽しみながら挑戦してみることが大切だと感じました。



5・6年生 総合学習
PepperとiPadを活用した学習発表会に向けて「SDGs」について調べ学習中。

支援学校

岡山県立東備支援学校の取組

地域交流と児童生徒の主体性を引き出すICT活用



GIGAスクール環境の活用と地域交流の様子を取材してきました

【概要】

備前市に位置する岡山県立東備支援学校は、東備地域と岡山市の一部を通学区域とする特別支援学校です。児童生徒の卒業後の豊かな生活につながるよう、地域との関わりを大切にしながら、主体的な学びと自立につながる力の育成を目指した教育を行っています。地域の伝統工芸でもある備前焼の制作や手芸、農業等に関する作業学習、販売実習、環境美化の活動、校外学習や体験学習等、数多くの学習や行事で、積極的な地域との交流が日常的に行われています。

児童生徒にとって、将来の生活の場となる地域との交流は、実践的な学びを通して人間関係を広げ、人とのつながりを作り、就労の場や生活の基盤を築いていくことにつながります。

こうした日々の学習の中で進められてきたICT活用は、教師が大きく映して見せながら説明する場面での活用や、個に応じた学習の中でアプリを活用し、主体的に自ら働きかける場面での活用が中心でした。GIGAスクール構想の推進によるICT環境整備により、1人1台端末の環境が実現し、新たな活用が始まり、積極的な情報発信も行われています。



校内にある本物の登り窯

【教育の情報化の推進に関する活用のポイント】

A 児童生徒の主体的な活動を充実させる活用



← ミッション 例

1 QRコードの活用



・電子マネーやパンフレット等、日常生活でも目にすることが増えてきた「QRコード」を学習活動の中に取り入れている。校内でのオリエンテーリングとして、チェックポイントにあるQRコードを見つけ、読み込んだ資料に書いてある課題に取り組む学習を行っている。ゲーム的な要素もあり、学習を繰り返すうちに児童生徒も慣れてきて、QRコードの読み込みが、児童生徒の主体的な活動のきっかけになり、興味を持って意欲的に行動することにつながっている。



QRコードを読み込んでミッションに挑戦

2 プレゼンテーションアプリの活用



・iPadのプレゼンテーションアプリのKeynoteを積極的に活用している。教師の説明場面で使う提示用の教材の他、児童生徒の学習のまとめや発表でも活用している。操作がわかりやすく、作成した教材や発表資料を簡単に共有でき、参考として再利用したりすることもできる。



Keynoteを使った一斉指導

3 アニメーションの作成（高等部）



・高等部の美術ではiPadを活用したアニメーションの作成に挑戦した。画用紙と割りピンを使って動物やキャラクターを作り、iPadの写真機能を活用して1コマずつ撮影していく。全体の動きをイメージしながら、各パーツの位置を決める。完成した動画をみんなで鑑賞して楽しむことができていた。



1コマずつiPadで撮影

4 生徒会選挙（高等部）



・高等部の生徒会選挙では、ポスターのQRコードから立候補者の公約を見ることができるようになり、Google Formsを活用して、iPadから投票できるようにしていた。生徒が各自で端末を操作し、主体的に行動することにより、立候補者の演説や公約に興味を持ち、自ら「選ぶ」ことにつながっていく。主権者教育の基礎的な学習にICTが役立っていた。

5

PC検定（岡山県特別支援学校技能検定）



・パソコンによる文字入力や文書作成の技術向上を目指して岡山県特別支援学校技能検定のPC検定に挑戦している。総合的な探究の時間や朝のチャレンジタイムで練習を重ね、各自で上の級や段の合格を目指している。検定は決められた時間内で、課題となる文章を正確に入力することが求められる。具体的な目標が見えることが、練習する意欲につながっている。



検定に向けて繰り返し練習

B 地域交流と情報発信を充実させる活用

6

Web会議システムを活用した学校間交流（小学部・中学部）



・小学部と中学部では、近隣の学校とWeb会議システムを活用した学校間交流を行っている。事前の教員間の打合せもオンラインで行った。直接話ができる等、対面の交流でしか得られないものも多いと思われるが、感染防止対策と効率化等の複数の効果があった。従来の対面での交流に合わせて、感染防止対策等の状況も踏まえながら、交流の継続の方策や効率化の一つとして考えられる状況ができています。



交流の打合せもオンラインで

7

Web会議システムを活用した家庭訪問



・感染症対策により学校での活動が大きく制限され、変更や中止が余儀なくされる中、Web会議システムの活用は、大きな可能性がある。保護者との関係づくりは今後の児童生徒への支援に欠かすことができず、必要に応じて家庭訪問にもオンラインを取り入れた。保護者の負担を減らすことができると同時に、ICT機器を活用する経験を増やし、今後の端末を持ち帰っての家庭学習へもつながると考えられる。



オンラインのメリットを生かした研修

8

教員研修での遠隔・動画技術の活用



・教員研修でも積極的にWeb会議システム等の遠隔や動画の技術が活用されている。校内研修では、感染防止対策として全員の集合を避け、学部単位やグループ単位で部屋を分けて、校内配信で行っている。また、研究発表等も外部参加者へ向け遠隔で行い、新たな発表形態として活用されている。移動時間や会場設定の柔軟性ができ、メリットを生かした活用が考えられている。また動画を使った研修は、作成段階での負担は増えるものの、繰り返して広く活用することができる。



わくわくとうび

9

ブログによる情報発信



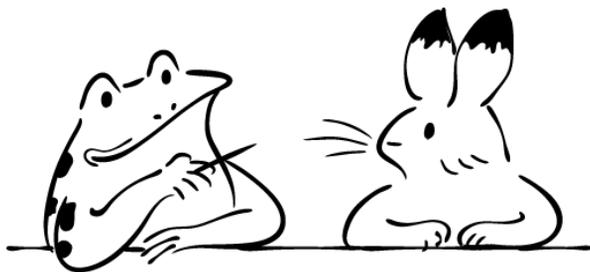
・地域交流を進めていくには、積極的な情報発信が大切になる。東備支援学校は、ホームページやFacebook、Instagramを通して、各学部の活動の様子を知らせたり、給食のメニューを毎日更新したりするなど、積極的な情報発信を続けている。学校の取組を広く知ってもらい、児童生徒の頑張りを知らせることは、学校の活動や児童生徒の障害への理解を進め、学校の応援団を増やすことにつながっている。

【まとめ】

12月に行われた「ふれあいとうびまつり」では、それまでの学習のまとめとして、学習の発表や作品展示、販売実習等が行われ、児童生徒の主体的な活動の様子と保護者や地域の方々の協力や交流の成果にふれることができました。発表の中では、絵カードとしての提示や音楽再生で、販売学習では、レジやバーコードリーダーとしての活用されるなど、いくつものICTの活用場面がありました。また、当日見に来ることができなかった人たちのために、ブログを通して発信する、といった自然な形で活用がされていました。いずれも普段の学習の延長で、ICTを使うことを、わざわざ考えるのではなく、GIGAスクール構想に沿って、無理のない必要に応じた活用がなされていました。こういったことの積み重ねが、児童生徒の将来につながる生きた力になるのではないかと感じました。



販売学習ではiPadをレジとして活用



岡山県総合教育センター

<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/215/>



講座受付システム

e 研修所おかやま
Okayama Prefectural Education Center

教育の情報化 ユニット研修プラス
【授業づくり編】

教育の情報化 ユニット研修
【GIGA端末導入期編】

eラーニングで活用できる
研修動画 ← 随時更新中！

おかやま！CT活用実践事例集

岡山県若手教員支援サイト

岡山県総合教育センター
Official Facebook

調査研究成果物 (冊子、リーフレット等)



岡山県総合教育センター
公式 YouTube Ch



岡山県総合教育センター 企画部



〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11
TEL 0866-56-9102 (企画部)
FAX 0866-56-9122 (企画部)
Web <https://www.pref.okayama.jp/soshiki/215/>

「UDデジタル教科書体」は、デジタル教科書をはじめとしたICT教育の現場に効果的なユニバーサルデザイン書体です。学習指導要領に準拠し、書き方の方向や点・ハライの形状を保ちながらも、太さの強弱を抑え、ロービジョン（弱視）、ディスレクシア（読み書き障害）に配慮したデザインで、リーダビリティについてのエビデンス（科学的根拠）も取得しました。また、2016年度より施行された障害者差別解消法の理念にも基づき設計されています。最新のWindows10に標準でインストールされています。

<https://www.typebank.co.jp/feature/uddkyo/>